

大型トラック・バスの車輪脱落事故防止に向けて

車輪取付け時の注意事項

2004年12月15日、国土交通省より標記の事故防止対策が通達されました。同通達の『タイヤ交換等ホイールを取り外して行う整備時における注意事項』について下記の手順を徹底しましょう。

〔以下はJIS方式(8穴ホイール)について述べます〕

◆ホイール取り外し準備作業

- ①取り外すタイヤ以外の車輪に車輪止めをする。
- ②ジャッキは常に正しい位置にセットし、車輪が少し浮き上がる程度にジャッキアップする。

◆ホイール取り外し後の点検・清掃作業

- ①ボルト、ナット、ホイールディスクに損傷が無いことを確認する。(折損、亀裂、変形等)
- ②ボルトが折れていた場合はその車輪の全ボルトを交換する。(整備事業者に依頼する)
- ③ホイールの種類(アルミ、スチール)を変更する場合は専用のボルト、ナットに交換する。
- ④ホイール平面部、車両のハブ、ボルト、ナットを清掃し、錆、ゴミ、追加塗装を取り除く。
ボルト、ナットに油類を薄く塗布する。(モリブデン入りの潤滑剤は使用しない)

◆ホイールナットの締め付け作業

- ①ホイールナットは対角線順に2～3回に分けて締め付ける。
- ②締め付けはトルクレンチを使用し規定のトルクで締め付ける。
- ③ダブルタイヤの場合は、インナーナットを規定トルクで締め付けた後、アウターナットを規定トルクで締め付ける。
- ④インパクトレンチを使用する場合は締め付け時間、圧縮空気圧力等に留意して締め過ぎないように十分注意を払い、トルクレンチでの確認等を併用する。

使用過程車の締め付けトルク 540～590N・m (55～60kgf・m)

尚、これ以上の締め付けトルクでの締め付けは、締付力が過大となりホイールボルトの折損等の原因となる場合がありますので、過大な締め付けには充分注意してください。

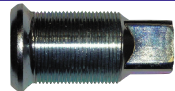
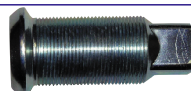
◆増し締め

- ①50～100km走行後ホイールナットを規定トルクで増し締めをする。

◆その他

- ①折損等の異常を発見した場合には直ちに確実な整備を行う。

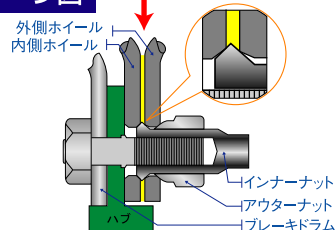
●後輪(複輪)用ナットの種類

	インナーナット	アウターナット
スチールホイール用		
アルミホイール用		

●ボルト・ホイールの誤組み

(スチールホイールとアルミホイール用インナーナットの組合せ例)

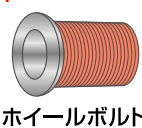
イメージ図



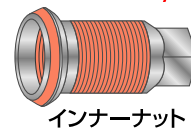
アルミホイール用インナーナットのフランジ直径はスチールホイール用のものより大きく、装着すると外側と内側ホイールの間にすき間が生じる

●油類塗布位置例

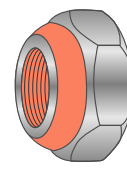
(塗布位置例；各メーカーが指定する位置に指定の「油類」を塗布)



ホイールボルト

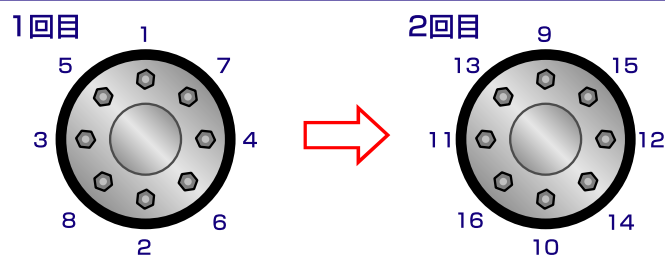


インナーナット



アウターナット

●締め付け順は対角線に



●トルクレンチで締め付け



●インパクトレンチはレギュレータを使用して空気圧力を安定化

